

平成29年度 大村看護高等専修学校自己評価

教育理念	対象者のニーズにこたえ、社会に貢献する。 対象者の人格を尊重する。 豊かな知性と人間性を持つ。 常に自己啓発する。 以上のことができる看護実践者を育成する。					
教育目的	准看護師に必要な知識および技術を修得させ、地域医療の向上に貢献する豊かな人間性の育成を目的とする。					
教育目標	1. 指示を受けて対象者の状況に合わせた、日常生活の援助と診療の補助を安楽に配慮し、安全に実施できる能力を養う。 2. 対象者を身体的・精神的・社会的側面をもつ統一体として理解する能力を養う。 3. 対象者・家族の考え方や人格を尊重し、倫理に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。 4. 保健医療チームの中で、准看護師の役割を理解し、他のメンバーと協調できる基盤を養う。 5. 常に良い看護を提供するため、自己啓発する態度を養う。					
努力目標	看護の喜びを感じる実習ができる。					
数値は、非常に当てはまる・4点、かなり当てはまる・3点、あまり当てはまらない・2点、まったく当てはまらない・1点で算出した平均点を示す。						
評価項目	目標	具体的方法	細項目	評価		成果と課題
				前期	年度末	
Ⅲ・教育課程経営	看護実習体制の保障に努める。	臨地実習施設に、生徒の看護実践の学習を支援する体制を整える。	早期に問題が明確になる。	3.4	3.6	実習の、支援体制は整っている。
			実習に取り組みやすい。	3.5	3.5	
		臨地実習指導における生徒の学びを保障するために、教員の役割を明確する。	”できた”という実感がわく。	3.3	3.1	できたという達成感までは至っていないが、提出物の遅れは前期に比較して良くなっている。達成感は高くなっている。
			達成感を感じられる。	3.3	3.4	
			提出物が遅れない。	3	3.3	
		臨地実習指導者と教員の協働体制を整える。	情報交換ができています。	3.5	3.6	実習では、実習指導者と教員の共同体制は良好である。
			連絡・報告・相談しやすい。	3.5	3.8	
		生徒からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示する。	誓約書・同意書内容を理解できる。	3.4	3.6	同意書の意味・必要性の理解はできている。
		対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、生徒への指導を計画的に行う。	誓約内容同意内容を守って行動できる。	3.4	3.5	援助前の説明など実施できている。
		臨地実習において生徒が関係する事故を把握、分析する。	インシデント・アクシデント分析の共有ができる。	3.5	3.8	実習の、安全教育対策は満足できるものである。
生徒に対する安全教育、安全対策を計画的に行う。	安全教育の実施がされている。	3.5	3.9			